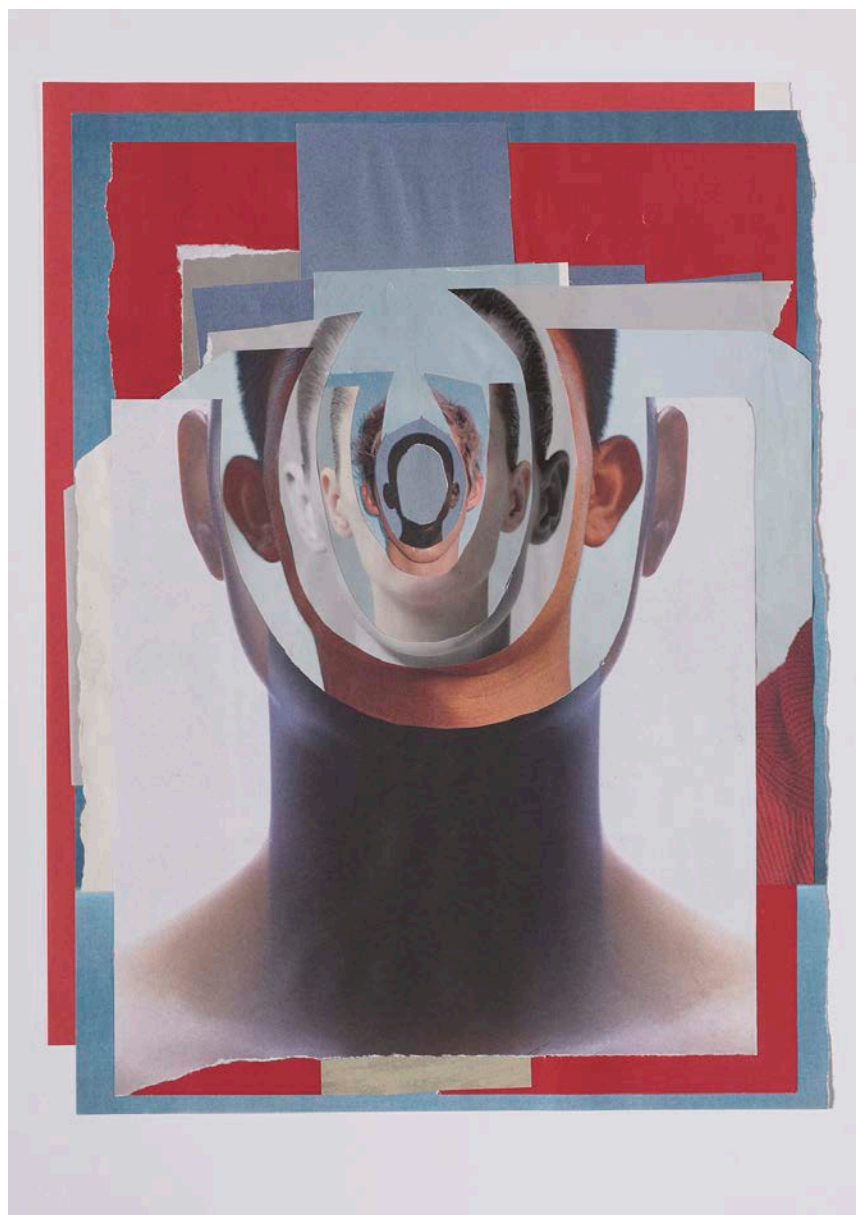


GALLERY KOYANAGI

PRESS RELEASE

30
years of
collaboration

ギャラリー小柳 展覧会のご案内
クリスチャン・マークレー LISTENING
2026.4.4 (Sat) – 6.30 (Tue)



Christian Marclay, *Concentric Listening (Red and Blue)*, 2024

KOYANAGI BUILDING 9TH FLOOR, 1-7-5 GINZA CHUO-KU TOKYO JAPAN 104-0061
TELEPHONE 03-3561-1896 TELEFAX 03-3563-3236

報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度ギャラリー小柳では、2026年4月4日（土）から6月30日（火）の会期で、クリスチャン・マークレーによる個展「LISTENING」を開催いたします。

クリスチャン・マークレーは1955年アメリカ・カリフォルニア生まれ。スイス・ジュネーヴで育ち、ボストンのマサチューセッツ芸術大学とニューヨークのクーパー・ユニオンに学びました。1979年にレコードとターンテーブルを楽器として用いたパフォーマンスを開始。実験音楽の分野で先駆的存在となります。1980年代以降は即興的なパフォーマンスのほか、聴覚と視覚の結びつきを探る作品を映像、写真、彫刻、絵画、版画などのメディアを往還してつくり続けています。2011年のヴェネチア・ビエンナーレでは《The Clock》で金獅子賞を受賞。日本においては2021年に東京都現代美術館で「クリスチャン・マークレー トランスレーティング [翻訳する]」を開催しました。

1996年にギャラリー小柳との協働を始めて以来、4回目の個展となる今回の展覧会では、前回2021年の個展「Voices」と同様、マークレーのオリジナル・コラージュで展示を構成。コラージュの新作シリーズ〈Concentric Listening〉と〈Eccentric Listening〉を発表いたします。またマークレーのアイコンと言えるレコードジャケットを用いた新シリーズ〈Oculi〉の最新作を展示いたします。

コラージュは常にマークレーの方法論の基盤にありました。映像やサウンド、紙の作品において、マークレーはDJのように音楽や映画、マンガやコミック、雑誌のイメージといったポップカルチャーの断片をサンプリングし、つなぎ合わせます。覆い被せたり、切り取ったり、再構成することにより、観る者の想像力を喚起するのです。

マークレーのコラージュの新作シリーズは、「LISTENING」すなわち聴くという行為を中心に据えています。音楽あるいは音を聴く行為は、長年にわたりマークレーの創作活動を形作ってきました。音と映像の境界をあいまいにして、それらがひとつの知覚の領域のなかで機能するように仕向けてきたのです。

〈Concentric Listening〉^{図版1}シリーズのコラージュは抽出と再構成のプロセスから展開したもので、マークレーの大規模な映像作品にも同様の手法が見られます。雑誌から切り取った完全な顔全体を提示する代わりに、マークレーはその顔の特徴を取り除き、突き出た耳を含む頭部の輪郭のみを残します。顔の中心部はくり抜かれ、残るのは輪郭線のみ——互いに重なり合う空虚な殻なのです。顔は射撃の的や波紋のように重なり合い、放射状の輪を形成します。もうひとつの新作シリーズ〈Eccentric Listening〉^{図版2}では、顔の構成はより空間的なダイナミクスへと開かれます。顔のそれぞれの耳は集合的な構造の一部となりながらも、指紋のように明確な個性を保ち続けます。



1



2



3

1 Concentric Listening (Red and Blue), 2024
2 Eccentric Listening (Eight Ears and Scarf), 2024
3 Oculi (Listening Trio), 2026

GALLERY KOYANAGI

このようなフレーミングと部分的な開示の手法は、ヴィンテージのレコードジャケットとスリーブをもとにしたコラージュのシリーズ〈Oculi〉の最新作《Oculi (Listening Trio)》(2026年)^{図版³}にも見られます。このシリーズでは、スリーブの中央にある円形の切り抜き部分(本来はレコードのレーベルが見えるようにデザインされたもの)が作品の構図に開口部を与えます。これらの開口部を通して、レコードジャケットのイメージの断片が現れつつ、全体のイメージは隠されているのです。

聴くことはイメージとなり、観念となる。それは単一の直線的な行為ではなく、層を成し、累積する過程である。知覚は拡大する円を描いて外へ放射され、孤立した身体から共有される共鳴の場へと向かっていく。耳そのものがコラージュを映し出す：外からの音と内なる解釈のあいだ、私的な経験と公的な空間のあいだの通路である。これらの作品においてコラージュは単なる組み立てる技術ではなく、聴く行為そのものの比喩——断片が循環し、重なり合い、反響する過程である。

クリスチャン・マークレー

展覧会の初日、4月4日(土)午後5時から7時まで、クリスチャン・マークレー本人が在廊し、レセプションを開催いたします。1986年にマークレーが初めて来日して本年で40年。その節目の年に開催される本展覧会でクリスチャン・マークレーの現在地を感じていただければ幸いです。

資料および図版のご依頼は担当者までご連絡ください。
ご掲載の際にはご一報いただけますよう、お願い申し上げます。

ギャラリー小柳

GALLERY KOYANAGI

【広報用図版】

ご使用の際は、次ページにあるキャプションとクレジットラインを表記いただくようお願いいたします。
下記の注意事項を遵守いただけますよう、お願い申し上げます。

- ・ 図版のトリミング不可
 - ・ 図版への文字載せ不可
 - ・ 図版の二次使用禁止、ご使用後は速やかにデータを破棄してください。
-

[図版1]



[図版2]



[図版3]



[図版1 キャプション]

クリスチャン・マークレー
Concentric Listening (Red and Blue)
2024 年
コラージュ
31 x 23.5 cm

Christian Marclay
Concentric Listening (Red and Blue)
2024
Collage
31 x 23.5 cm

[図版2 キャプション]

クリスチャン・マークレー
Eccentric Listening (Eight Ears and Scarf)
2024 年
コラージュ
42 x 30.3 cm

Christian Marclay
Eccentric Listening (Eight Ears and Scarf)
2024
Collage
42 x 30.3 cm

[図版3 キャプション]

クリスチャン・マークレー
Oculi (Listening Trio)
2026 年
3 枚のレコードジャケットとスリーブ
31 x 93.5 cm

Christian Marclay
Oculi (Listening Trio)
2026
Three record covers and sleeves
31 x 93.5 cm

[クレジットライン共通]

© Christian Marclay / Courtesy of Gallery Koyanagi

【展覧会概要】

展覧会名：クリスチャン・マークレー LISTENING
会期：2026 年 4 月 4 日（土）－6 月 30 日（火）
[オープニング・レセプション：4 月 4 日（土）17:00－19:00]

開廊時間：12:00－19:00
休廊日：日／月／祝祭日

会場：ギャラリー小柳
東京都中央区銀座 1-7-5 小柳ビル 9F
Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

アクセス：
東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7 番出口より徒歩 1 分
丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 A-9 出口より徒歩 5 分

お問い合わせ：ギャラリー小柳
Tel: 03-3561-1896
Mail: mail@gallerykoyanagi.com
URL: <http://www.gallerykoyanagi.com>
Instagram: @gallerykoyanagi

GALLERY KOYANAGI

Christian Marclay

クリスチャン・マークレー

1955年アメリカ・カリフォルニア州サンラファエル生まれ、スイス・ジュネーヴで育つ。ボストンのマサチューセッツ芸術大学とニューヨークのクーパー・ユニオンに学び、1979年にレコードとターンテーブルを楽器として用いたパフォーマンスを開始。実験音楽の分野で先駆的存在となる。1980年代以降は即興的なパフォーマンスのほか、聴覚と視覚の結びつきを探る作品を映像、写真、彫刻、絵画、版画などメディアを往還してつくり続けている。

近年の個展としてはポンピドゥ・センター（パリ、2022年）、東京都現代美術館（2021年）、ロサンゼルス・カウンティ美術館（2019年）、バルセロナ現代美術館（2019年）、アールガウ美術館（スイス、2015年）、パレ・ド・トーキョー（パリ、2012年）、ホイットニー美術館（ニューヨーク、2010年）など。2011年、古今東西の映画から時計や時間を表す場面をコラージュして現実の時間と同期する24時間の映像作品《The Clock》（2010年）を第54回ヴェネチア・ビエンナーレで展示し金獅子賞を受賞。音楽の分野でも重要な活動を継続しており、ジョン・ゾーン、エリオット・シャープ、ソニック・ユース、スティーブ・ベレスフォード、オックユン・リー、大友良英ら数多くのミュージシャンと共演している。



Photo: The Daily Eye